感染症発生動向調査委員会報告　11月

≪今月のトピックス≫

- インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回る区が見られました。
- RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告が増加しています。
- 水痘の報告が増加しています。

全数把握疾患　11月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
腸管出血性大腸菌感染症	2件	ジアルジア症	1件
腸チフス	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	3件	風しん	1件
アメーバ赤痢	2件		

＜細菌性赤痢＞Shigella flexneri(B群)の報告が1件ありました。国内での感染が推定されています。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞2件(O157 VT2 、O103 VT1)の報告がありました。O157 VT2の事例では国内での感染が推定されており、原因は現在調査中です。また、O103 VT1の事例はイタリアでの感染が推定されていますが感染経路等不明です。

＜腸チフス＞1件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型 2 件、無症状病原体保有者 1 件(入院時の検査で判明)の報告がありました。どちらも感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触、もう1件は国外での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞1件の無症状病原体保有者の報告がありましたが、感染経路感染地域等不明でした。

＜ジアルジア症＞1件の報告がありました。ネパールでの経口感染または水系感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件の報告がありました。1件は50歳代女性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱、咳、全身倦怠感です。血清型は7型でした。もう1件は70歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱と咳で、肺炎が認められました。血清型は19型でした。残るもう1件は80歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱と咳で、肺炎と低酸素血症が認められました。血清型は現在検査中です。

＜風しん＞1件の10歳代女性の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。ペア血清で診断されました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。　◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

定点把握疾患　平成25年10月28日から平成25年11月24日まで(平成25年第44週から平成25年第47週まで。ただし、性感染症については平成25年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年　週－月日対照表	
第44週	10月28日～11月　3日
第45週	11月　4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

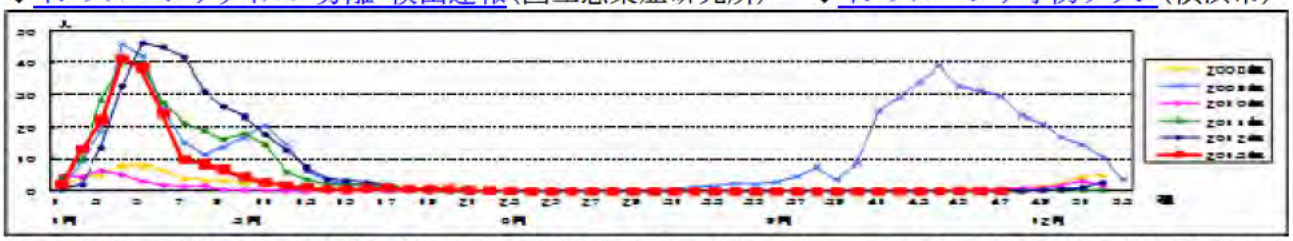
1　患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

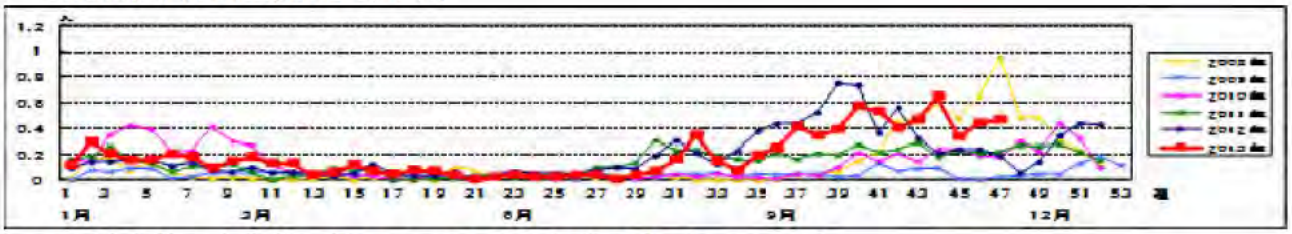
＜インフルエンザ＞第47週は市全体で定点あたり0.17と流行開始の目安となる1.00を大きく下回っていますが、緑区で2.20となりました。迅速キットの集計では、第46週A型65.2%、B型34.8%、第47週A型75.0%、B型25.0%と、シーズン初めにしてはB型の報告が多くなっています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)を中心に、AH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(山形系統)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報（衛生研究所）

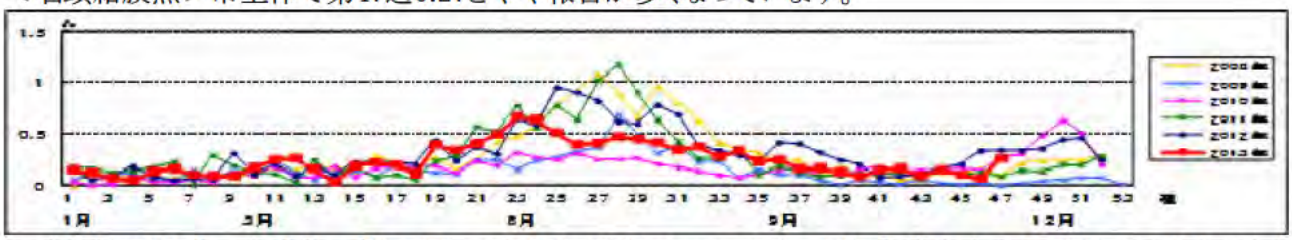
◆インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）　◆インフルエンザ予防チラシ（横浜市）



＜RSウイルス感染症＞市全体で第47週0.48と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。

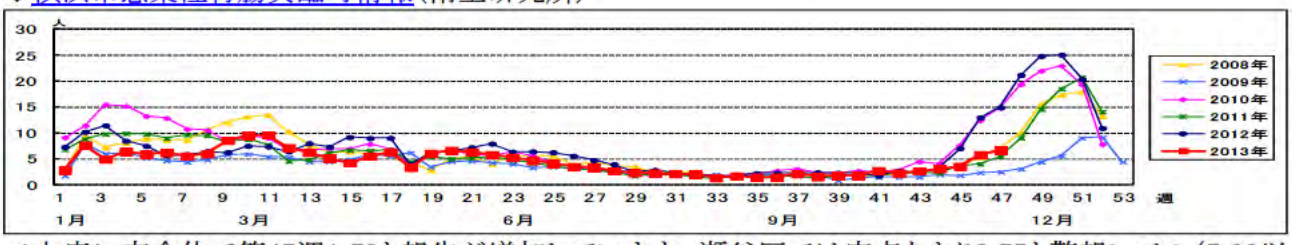


＜咽頭結膜熱＞市全体で第47週0.27とやや報告が多くなっています。

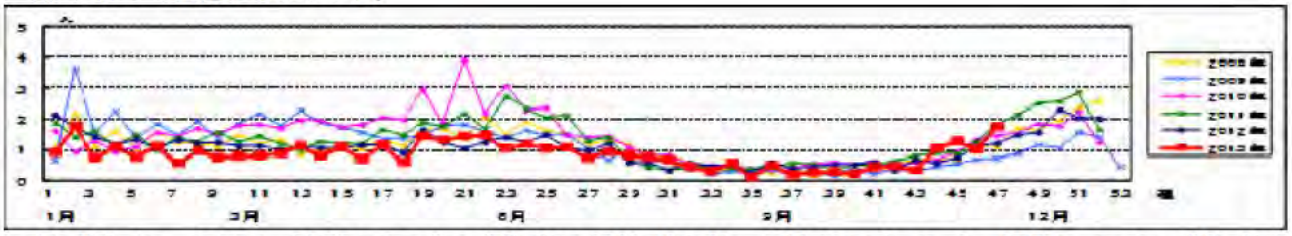


＜感染性胃腸炎＞市全体で第47週6.75と報告が増加しています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報（衛生研究所）



＜水痘＞市全体で第47週1.79と報告が増加しています。瀬谷区では定点あたり9.75と警報レベル（7.00以上）、中区5.50、旭区4.60では注意報レベル（4.00以上）となっています。例年年末にかけて報告数が増加するので注意が必要です。



＜性感染症＞10月は、性器クラミジア感染症は男性が36件、女性が14件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第44週1.25、第45週0.75、第46週0.75、第47週0.00となっています。感染性胃腸炎（ロタウイルス）は第46週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症とペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便4件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点5件(鼻咽頭ぬぐい液3件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎22人、下気道炎18人、耳下腺炎、胃腸炎各4人、インフルエンザ、突発性発疹(疑い)各1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、基幹定点はムンプス(疑い)、けいれん重積発作、発熱、肺炎・肝障害、スティーブンス・ジョンソン症候群各1人でした。

12月10日現在、小児科定点の上気道炎患者3人と下気道炎患者4人からアデノウイルス(型未同定)、上気道炎患者2人からコクサッキーウイルス(B1型、B3型各1人)、耳下腺炎患者1人からムンプスウイルス、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者3人、下気道炎患者2人、インフルエンザ患者1人からRSウイルス、上気道炎患者2人と下気道炎患者3人からパラインフルエンザウイルス(以下Para、4型3人、1型、2型各1人)、上気道炎患者1人と下気道炎患者4人からライノウイルス、上気道炎患者、下気道炎患者各1人からアデノウイルス(型未同定)、上気道炎患者、下気道炎患者各1人からアデノウイルスとRSウイルス、上気道炎患者、突発性発疹(疑い)患者各1人からアデノウイルスとライノウイルス、上気道炎患者1人からRSウイルスとPara3型、1人からPara2型と4型、下気道炎患者1人からRSウイルスとライノウイルス、1人からRSウイルスとPara1型、1人からアデノウイルスとPara4型、1人からライノウイルスとPara2型、胃腸炎患者1人からエコーウイルス25型、1人からノロウイルス、基幹定点の肺炎・肝障害患者1人からアデノウイルス(型未同定)とライノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

＜細菌検査＞

11月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から10件、定点以外の医療機関等からは10件あり、赤痢菌(*S.flexneri* 2、*S.flexneri* 6)2件、腸管出血性大腸菌3件、腸管毒素原性大腸菌2件、チフス菌1件、*Campylobacter jejuni* が5件でした。

その他の感染症は小児科から4件、基幹病院から3件、その他が8件でした。

(次ページに表)

表　感染症発生動向調査における病原体検査（11月）

感染性胃腸炎

検査年月	11月			2013年1月～11月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	0	10	10	5	93	87
菌種名						
赤痢菌		1	1		3	4
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			3		1	61
腸管毒素原性大腸菌		2			4	
チフス菌			1		4	3
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
カンピロバクター			5			5
不検出	0	7	0	4	59	12

その他の感染症

検査年月		11月			2013年1月～11月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		4	3	8	59	29	154
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1				1	1	
	T2				5		
	T4				10		
	T6	1			8		
	T12				4		
	T25	1			3		
	T28				3		
	T B3264				3		
	型別不能	1			1		
B群溶血性レンサ球菌				2	1		2
G群溶血性レンサ球菌				1			3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						10	
バンコマイシン耐性腸球菌						2	21
Legionella pneumophila							3
インフルエンザ菌		1			2		4
肺炎球菌			1		5	4	22
Neisseria meningitidis							2
黄色ブドウ球菌					2	5	1
結核菌							10
緑膿菌							63
百日咳			1			3	1
その他			1	2		4	6
不検出		0	0	3	11	0	16

＊：定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】